

令和 5 年 秋の農作業安全確認運動推進会議 農作業安全の取組み

【はじめに】

- ① JA共済では、組合員・利用者の「安心」と「満足」の実現を目的に、農業者の生活と事業を守る趣旨から共済事業を実施しています。
- ② 本日は、近年の農作業安全のための取組みについて、以下 3 点をご紹介します。
 - ・ 共済事故データに基づく農作業事故の分析
 - ・ 農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験 V R」を活用した学習プログラムの提供
 - ・ 共済仕組みとしての「安全性の高い農業機械（検査合格機）に対する掛金割引」

全国共済農業協同組合連合会（JA共済連）

JA共済の取組みについて

共済とは

生活を取り巻くさまざまなリスク（病気や事故等）に対して、**不測の事故などが生じた場合は「共済金」をお支払いすることで、生活の安定を図る相互扶助（助け合い）の保障制度**です。



ひと・いえ・くるまの総合保障

**皆さまの暮らしに
確かな安心を
お届けします。**

JA共済の取組み

- ① 組合員・利用者の皆さまが、住み慣れた地域で、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献するために、地域の皆さまとの絆を大切にしながら、**共済事業と地域貢献活動に取り組んでいます。**
- ② 保障の提供と地域貢献活動を通じて、地域社会へ「安心」と「満足」の輪を広げていきます。



農作業安全の取組み① ～共済事故データに基づく農作業事故の分析～

- 農作業事故の現状について、死亡事故数は農水省により公表いただいておりますが、ケガなど死亡以外を含めた件数は統計データが不足しており、農作業事故の全体像は明らかになっていませんでした。
- そこで、JA共済連は、農作業事故の全体像を明らかにするため、約3万6千件の共済金請求時の事故状況データを分析しました。

農作業事故のデータ

農林水産省が死亡事故数を公表

○就業者10万人あたり**10.5件**発生

○全産業平均（1.3件）の**約8倍**等

（出典：令和5年2月農林水産省
「令和3年の農作業死亡事故について」）

しかし、傷害等も含めた事故全体の
件数は統計データが不足

**農作業事故の全体像は
明らかになっていない**

事故状況データの分析

ひと分野

共済金請求時の大量の事故状況データの中から
「農作業事故」とわかるデータを抽出

○**傷害共済**
（農作業中傷害共済 等）

過去4年分
2万1,634件

くるま分野

○**自動車共済**
（農業用車両の物損事故）

過去5年分
1万4,990件

農作業安全の取組み① ～共済事故データに基づく農作業事故の分析～

- 分析の結果、後遺障害事故は死亡事故の約2倍、傷害事故は死亡事故の約266倍の件数が発生していることが確認でき、農作業事故の全体像を推計することができました。

事故状況データの分析結果

後遺障害事故 = 死亡事故の約 **2倍**

年間 **601件** 発生



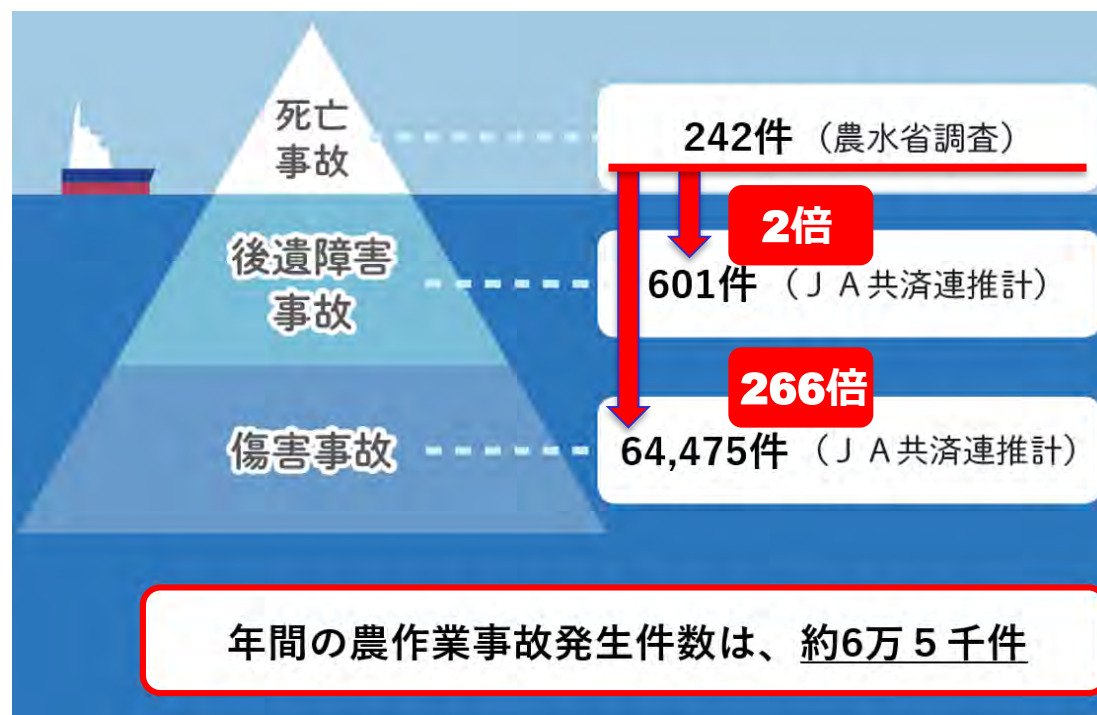
傷害事故 = 死亡事故の約 **266倍**

年間 **64,475件** 発生



農作業事故全体 = 年間 **65,318件** 発生

(J A 共済連推計)

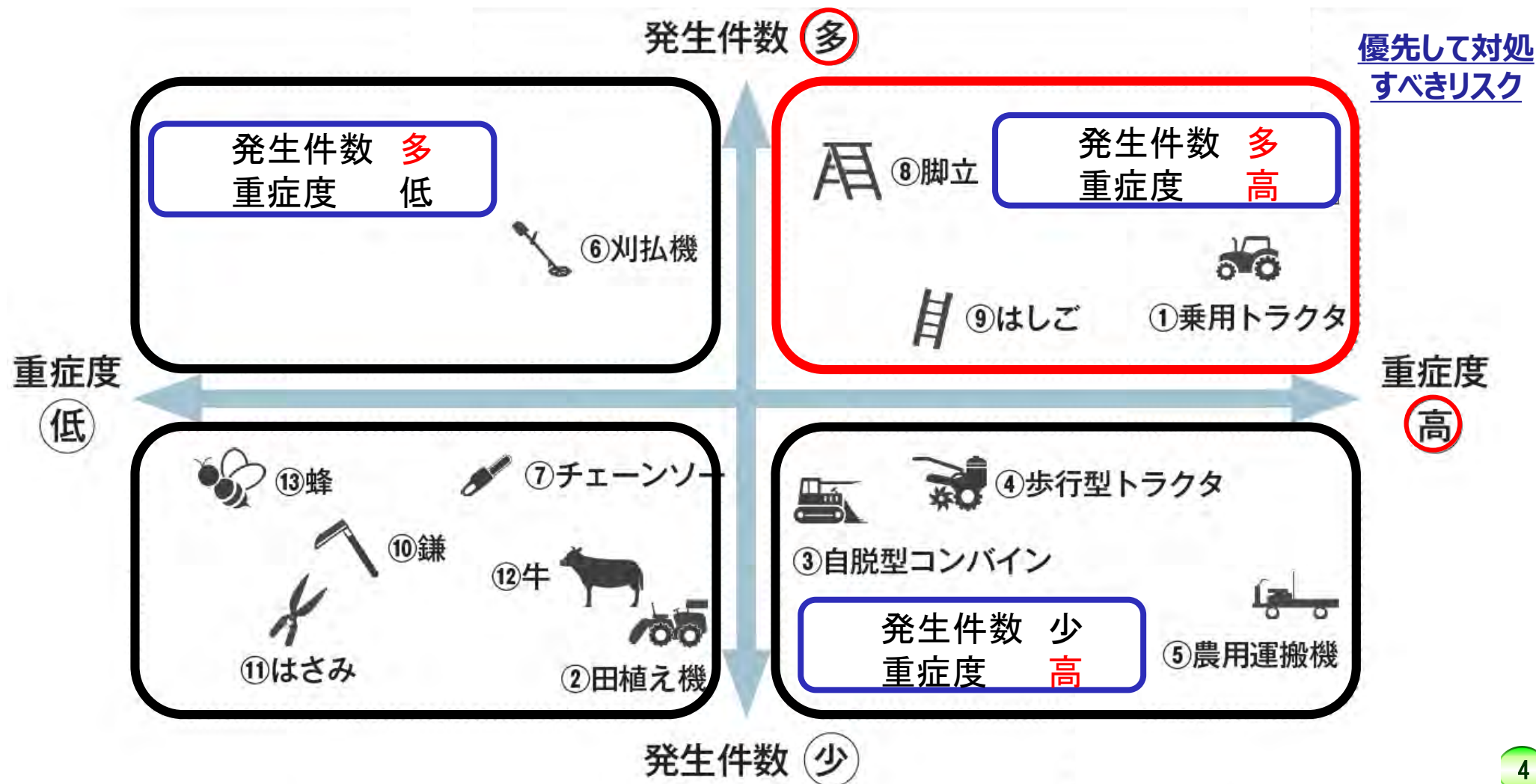


↓ 1日あたり 約180件

農作業事故の全体像が明らかに

農作業安全の取組み① ～共済事故データに基づく農作業事故の分析～

○ さらに事故分析データを活用し、「発生件数」と事故に遭ったときに大きなケガを負う可能性の高い「重症度」を使ってリスクマップを作成し、優先して対処すべきリスクの見える化を行いました。



農作業安全の取組み① ～共済事故データに基づく農作業事故の分析～

- 特に「物」は多くの事故の原因となっており、重大事故につながりやすいことがわかりました。
- 事故データを分析することで、農機事故の特徴（⇒未然防止の対策）も明らかになりました。
⇒この分析が、次頁以降の「農作業事故体験VR」や「検査合格機に対する掛金割引」を行うきっかけとなりました。

農作業事故が発生する要因

①場所や天候などの
「環境」

×

②農機具や生物などの
「物」

×

③作業者である
「人」

3つの要因が積み重なると？

- ・ ちょっとした油断
- ・ 機械・道具の欠陥
- ・ 条件の悪い環境で・・・

事故発生！

①環境

②物

③人

農作業安全の取組み① ～共済事故データに基づく農作業事故の分析～

○ これらの分析データはJA共済のホームページで公開しており、どなたでもご覧いただけます。
分析データの共有により、社会全体で農作業事故を未然に防ぐ活動を展開していきたいと考えています。

農作業事故データ分析の結果

1. 農作業事故の全体像が明らかに！

後遺障害事故、傷害事故を含めて年間 6 万 5 千件の農作業事故が発生している。

2. 優先して対処すべきリスクが明らかに！

農作業事故が発生する要因のうち「物」は、多くの事故の原因で、さらに重大事故につながりやすい。

3. 事故データの分析で農機事故の特徴が明らかに！

各農機事故の特徴から未然防止に向けた対策につながる。

第 1 回：平成30年8月9日公表
(平成25年～28年までの分析データ)

分析データの共有

第 2 回：令和4年4月8日公表
(平成29年～令和2年までの分析データ)

農作業安全の取組み② ～農作業事故体験VR～

- 農作業事故の未然防止を目的に、当事者視点から農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを農研機構と共同で開発しました。
- また、発生原因や安全対策を紹介する「学習動画」も提供しています。農作業事故を再現したVR動画で農作業事故を疑似体験いただいた後に、事故の発生原因や安全対策を収録している学習動画を視聴いただくことで、事故の原因や対策について深く学ぶことができます。

1 当事者視点で事故を疑似体験

《ポイント》

- ・ 共済金の支払データの分析結果に基づき“注意すべき事故”を**当事者視点で映像化**。発生原因や未然防止策の解説も収録
- ・ 疑似体験することで**自分ごととして深い理解促進**に繋げることが可能
- ・ 「学習動画」で事故の発生原因や安全対策を確認

2 VR動画ラインナップ

全8種類の動画コンテンツを提供。様々な状況を想定した学習が可能です。



①乗用型トラクター
転倒事故



②コンバイン
巻き込まれ事故



③スピードスプレーヤー
挟まれ事故



④耕うん機
後進作業事故



⑤刈払機
刃との接触事故



⑥脚立
転落事故



⑦農用運搬機
転倒・積み卸し作業事故



⑧田植え機
巻き込まれ・転倒事故



◀動画はこちらからご覧いただけます

※リンク先: JA共済の地域貢献活動HP

「ちいきのきずな」

農作業安全の取組み② ～農作業事故体験VR～

③ VRを活用した講習会等の実施

《ポイント》

- ・ 全国のJAが開催する講習会等で活用されています（令和2年度から展開し、これまで全国38の都道府県にて、延べ380回開催）
- ・ VR機材の貸出は全国どこでも無償で対応しています。
- ・ 参加者には、チラシを配付しており、動画視聴の際に補助資料として活用できます。また、QRコードから動画視聴できるため、ご家族と一緒に農作業される方と共有可能です。

農作業安全バトロール 乗用型トラクター 転倒編 (VR)

！ 農作業事故はどのくらい起きているの？
 農作業事故は年間約7万件、1日あたり約200件発生しています！
 農業者10万人あたりの死亡事故数は建設業の約2倍となっています！

！ 乗用型トラクターではどのような事故が起きているの？
 運転中の転倒・転落や準備・整備中の事故が多く発生しています。
 特に4～6月・10～11月に多発しています。

！ 事故事例1：道路走行中の転倒事故
 道路を走行中、前方から自動車
 が来たので避けようとしたところ
 路肩との距離を見誤り道路から
 転倒。
 破損したガラスで左腕を負傷、
 左大腿部を打撲してしまいました。

事故の要因 環境要因 物要因 人要因
 ① 車両とすれ違うには狭い道となっていました。
 ② 前方の対向車に気をとられ、十分に路肩の位置を確認できていませんでした。
 ③ シートベルトを着用していませんでした。

対策
 ① 路肩に寄せる際はできるだけ安全な距離を確保するようにしましょう。
 ② ヘルメットおよびシートベルトを着用しましょう。

！ 事故事例2：日没後の追突事故

トラクターに作業機を付けた
 まま、日没後に道路を走行中、
 乗用車に追突され、機体が道路
 左の水路に転倒。
 トラクターの下敷きとなって
 死亡してしまいました。

事故の要因 環境要因 物要因 人要因
 ① 現場は照明が少ないため、夕方になると一気に暗くなります。
 ② 作業機を付けた状態で、乗用車からは反射鏡が見えず、運転者自身も後方が見えなかった可能性があります。
 ③ 低速車マークを着着していませんでした。
 ④ 安全キャブ・フレームのない古い機体でした。

対策
 ① できるだけ夜間の走行を避けるスケジュールで作業を進めましょう。
 ② 安全基準を満たす灯火設備を必ず取り付けるとともに、低速車マークや反射材を装着し、他車に存在を認識してもらえれば対策を行うようにしましょう。
 ③ 安全キャブ・フレームを備えたトラクターを使用し、ヘルメットおよびシートベルトを着用しましょう。

よくある事故シーンを動画で紹介！
 農作業事故を再現した
 「乗用型トラクター 転倒編 (VR動画)」
 はこちら！
 事故の要因や対策が学べます！！

※こちらのチラシおよび動画などのコンテンツは、自由にご活用ください(※商用に限りません)。



VR動画をもとに
事故事例をイラストで紹介

チラシ裏面のQRコードから
簡単に動画が視聴可能

農作業安全の取組み② ～農作業事故体験VR～

参考 講習会等の事例

- 北海道 組合員ふれあい祭り
- 新潟県 JA全農にいがたさんくすフェア
- 千葉県 女性部研修会
- 長野県 長野県農業大学校講義
- 鹿児島県 農作業安全対策推進研修会 等々



講習会やイベントの様子

<トピックス>

J A 共済では、これからの農業を担う学生に対する啓発活動に取り組んでいます。

全国農業高等学校長協会への『農作業事故体験V R』の紹介を契機に、令和5年6月に東京都立園芸高等学校（世田谷区深沢）の園芸科1年生約70名を対象に、農作業安全授業を実施いたしました。

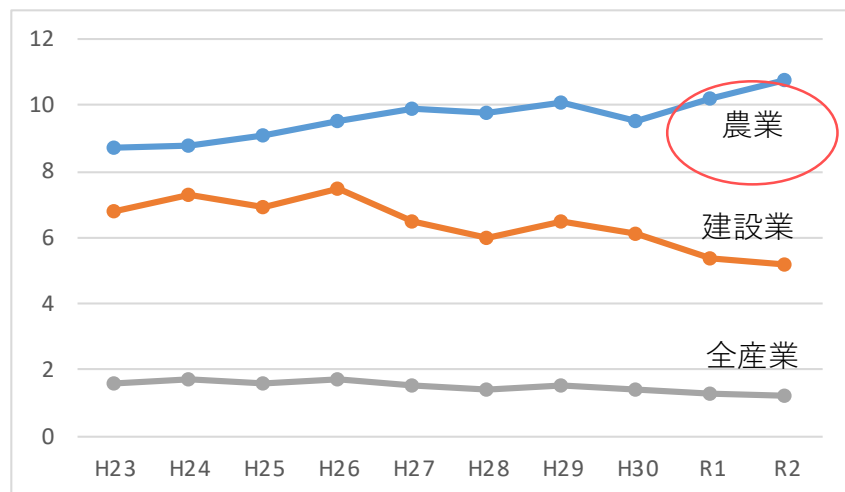


農作業安全授業の様子

農作業安全の取組み③ ～検査合格機に対する掛金割引～

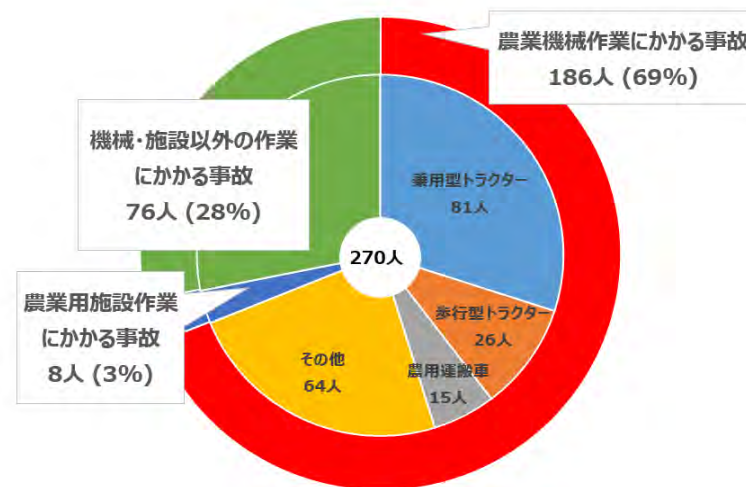
- ① 農業就業人口あたりの農作業事故の死者数は他産業より高く増加傾向にあり、その事故の多くが農業機械作業中の事故である実態から、「農業機械の安全性の向上」や「安全性の高い農業機械の普及」が農業分野の喫緊の課題であると認識しています。
- ② このような課題がある中で、共済の保障面や掛金面から何かお役に立つことができないかを考え、農研機構とも意見交換を行い、ご契約者様の経済的メリットにもつなげる「共済掛金（保険料）の割引」の検討を進めることとしました。

■ 10万人あたりの死亡事故発生件数の推移（農水省公表）



農作業事故の死者数（農業就業人口当たり）は増加傾向にあり、他産業との差は拡大

■ 令和2年・要因別の死亡事故発生状況（農水省公表）



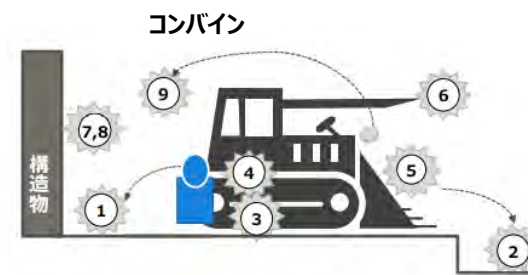
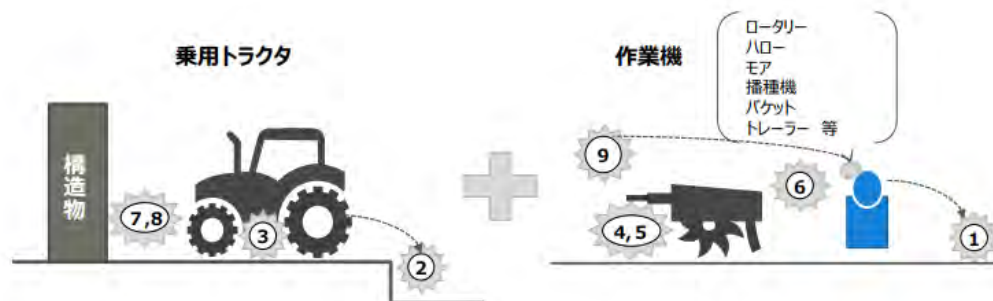
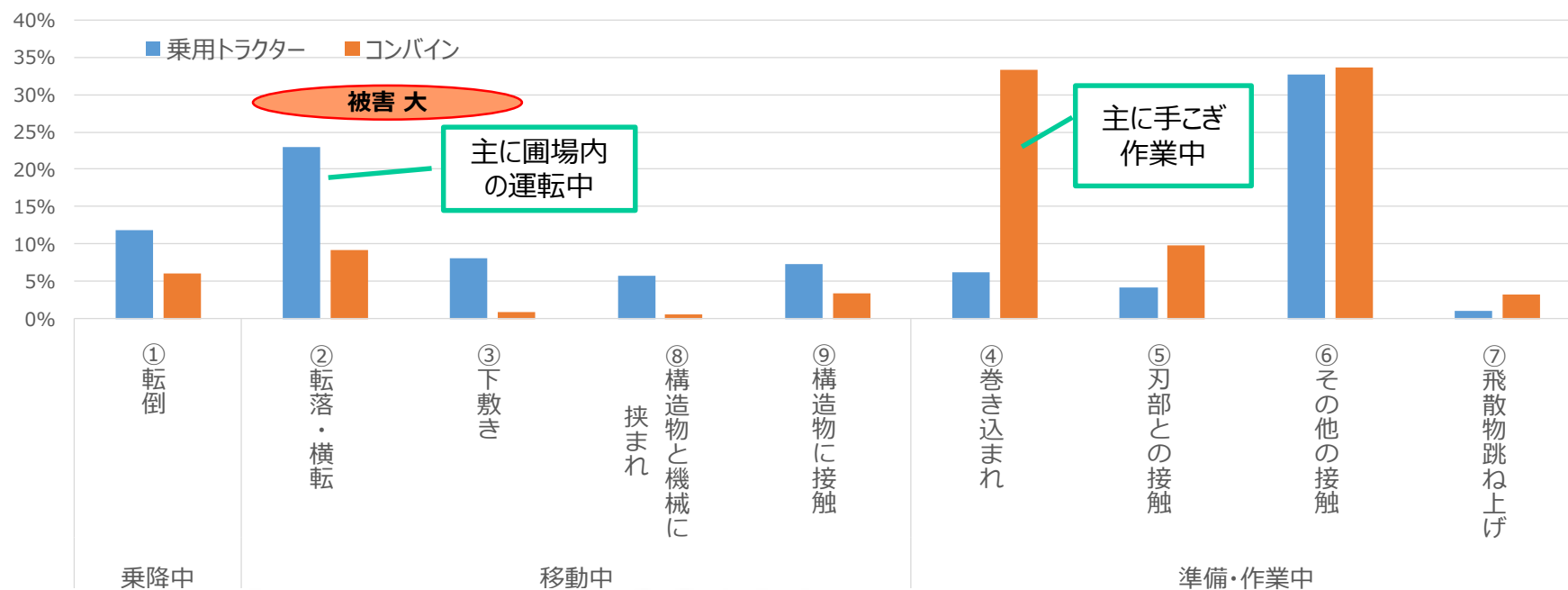
農業機械作業中の事故が大きな事故要因（死亡事故全体の69%を占めている）

農作業安全の取組み③ ～検査合格機に対する掛金割引～

＜掛金割引の導入に向けて①＞

農業機械ではどのような事故が発生しているのか、データ分析を行いました。

→ 乗用トラクターでは「圃場内の運転中における転落・横転事故」が、コンバインでは「農作業中の機体への巻き込まれ・接触事故」が多く発生していることなどがわかりました。



農作業安全の取組み③ ～検査合格機に対する掛金割引～

<掛金割引の導入に向けて②>

農業機械の事故発生状況と農研機構が行う安全性検査基準の関係を確認し、検査に合格した農機では事故の発生件数や事故が起きたときの重症度が低減することがわかりました。

■ 安全性検査における検査上の確認項目とリスク低減効果（一部抜粋）

機種	分類	検査基準上の確認項目	リスク低減効果	
共通	安全装置	・作業者が容易に操作でき、かつ一旦停止操作した後は再び操作しない限り再始動しない「原動機停止装置」を備える	緊急時における誤操作等による <u>事故の防止</u>	
	安定性	・走行状態のときに30度まで傾けても転倒しない左右の安定度を有している	傾斜のある場所の移動（ほ場の出入り）等における <u>転落・横転事故の防止</u>	発生件数 減
	その他	・走行装置、ブレーキ、主クラッチ、アクセル等は座席の中心線から左右それぞれ500mm以内に配置	緊急時の <u>事故の防止</u>	
乗用トラクター固有	安全装置	・型式検査に合格した「安全キャブまたは安全フレーム」を装着	転落や横転時の <u>運転者への被害軽減</u>	重症度 減
		・片ブレーキ防止装置	片ブレーキを原因とした <u>転落・横転事故の防止</u>	発生件数 減
		・シートベルト・安全フレーム未装着にかかる注意喚起装置	事故時の <u>運転者への被害軽減</u>	重症度 減
	その他	・走行中に低速車両であることを後続の車両に知らせるための表示を備える	<u>追突事故の防止</u>	発生件数 減
コンバイン固有	安全装置	・カッタ部にわら等のつまりが生じた際に、カッタ用動力が自動的に断たれる装置を備える	<u>事故時の運転者への被害防止</u>	発生件数 減
		・手こぎ作業時に作業者の手が容易に届く位置に原動機の緊急停止装置を備える		
		・手こぎ作業時に手腕の巻き込まれを抑制する装置		

農作業安全の取組み③ ～検査合格機に対する掛金割引～

以上のような検討から、農研機構が行う安全性検査に合格した型式（合格機）に対する掛金割引を導入することとし、令和5年1月から開始しています。

<割引内容>

項目	内容
対象型式	農研機構が行う安全性検査に合格した型式
対象担保	自動車共済の各担保（車両、対人、対物、傷害定額、人身傷害）
割引率	9%程度（担保共通）

（参考：農業用安全自動車割引を適用した場合の共済掛金例（共済責任の開始日がR5.1以降に適用する契約の場合））

代表的なフル保障の場合の 共済掛金			①割引なし	②割引あり	③割引額
農耕作業用 大型特殊自動車 (大型のトラクター等)		6等級新規	94,320円	85,830円	8,490円
		20等級	40,110円	36,500円	3,610円
農耕作業用 小型特殊自動車 (小型のトラクター等)		6等級新規	71,890円	65,410円	6,480円
		20等級	30,610円	27,890円	2,720円

最後に

- 農業者の皆様にとって、農業機械（農業車両）は営農や生活のためになくてはならない存在です。
- JA共済は、時代の変化を取り込みながら、一層の安心を届けるべく、取り組んでまいります。
- 農業者の皆様の安全向上に資するべく、今後も様々な視点から研究を進めてまいりますので、本日までご出席の皆様からも引き続きご協力をいただけると幸いです。



農業者の方に直接困り事をお聞きしながら、研究を進めております。